



会報 第36号

● 発行者 ●
栃木県立真岡北陵
高等学校 同窓会
● 編 集 ●
同上編集委員会
● 印刷所 ●
(株) 杉 山 印 刷

絆への想い



同窓会副会長

大 足 節

同窓会々員のみなさん
には、希望に満ちたよい
お年を迎えられたこと
お喜び申し上げます。今
回、急な原稿依頼があり
ましたので、誠に光越な
がら、ご挨拶申し上げます。
昨年三月十一日の東
日本大震災・福島原発の
臨界事故は、日本中を震
撼させた大きな事件でし
た。更に台風による豪雨

は、西日本を襲いました。
私たちの住む芳賀郡市町
においても、関東ロー
層地帯の被害は甚大なも
のであったことは皆さん
ご周知のとおりです。本
校も校舎の一部、体育館
当に被害があり、校長先
生を始め教職員の皆さん
は、学校運営に多くの気
苦労があったことと推察
いたしております。

生徒達の活動から思うこと



学校長

国府田 健 二

同窓会の皆様におかれ
ましては日頃より様々
なご支援、ご協力をいた
だき感謝いたします。現在
震災からの完全復旧に向
けて施設、設備の工事が
動き出しているところ
です。また、今年度の各行
事は先生方や生徒達の工
夫と協力により無事終
ることができました。

私は昭和五十五年、栃
木国体の年に当時の真岡
農業高校に赴任し五年間
ほどお世話になりました。
当時は、農業科、園芸科、
畜産科、食品科学科がそ
れぞれ一クラス。生活科
が二クラスで一学年六ク
ラスでした。その後二度
の学科改編を経て、現在
は農業系三学科（生物生
産科、農業機械科、食品

科学科）、商業系一学科
（総合ビジネス科）、福祉
系一学科（教養福祉科）
の一年五クラスとなっ
ています。過日、私の在
職当時の校長、岡本博先
生が訪ねてくれました。
この頃の卒業記念樹の話
になり、庭に出てみたところ、
現在もしっかりと
残っていました。ただ、
花木が三本あるところ
が一本しか残っていない
たので機会があったら
若木を植えましょうとい
うことで分かれた。

今、校長室の掃除当番
は総合ビジネス科の生徒
です。掃除中に時々雑談
しますが、資格取得に目
標を置いてきたと自信と
意欲に溢れる高校生活を
語る姿には頼もしさも感

こうした環境にあつて
も、生徒達はいろんな分
野でめざましい活躍をさ
れていました。特にライ
フル射撃競技選手権大会
の全国Vはつばでした。
県高校スポーツ賞の栄
に輝いています。

主・松平忠信公の理念・
みんなが他人のために汗
を流してつくる「共同参
画社会」これこそが結い
の精神であり「絆」の原
点であると信じていると
ころです。震災以来十ヶ
月が過ぎた今も、余震が
続いている現状です。こ
れからの本格的な復旧・
復興に向かつてさらなる
「絆」が必要で、今
回の大惨事を風化させな
いために、「絆」の精
神を活かし続けたいもの
です。

原発について問われた
一少女の言葉、「直せな
べルの高さを示してくれ
ました。生物生産科の畜
産選考生徒の中には自主
的に毎朝七時には登校
して牛の世話の手伝いを
している生徒達がいます。
一生懸命やっている生徒
達の様子を聞くときの底
から力が湧いてきます。
一月に業者による庭の
手入れをしました。その
際、紅白の花水木を植え
ました。若木は腕の太さ
もないくらいのもので
すが、これから立って
いく現在の生徒達と重ね
合わされて、その成長が
楽しみに思えます。



青年部事業報告



青年部長

荒 川 善 丸

平成二十年四月から同
窓会青年部長に就任し
た荒川善丸です。
昨年度は、三月十一日
に発生した東日本大震災
という未曾有の災害に直
面し、更に原子力発電所
の事故によってみなさん
の生活に大きな影響を
与えました。

このような状況の中、
青年部の活動はできるの
かと心配しましたが、同
窓会役員の先輩方、事務
局の先生方、また同窓生
の皆様方の暖かいご指導
ご支援を頂き、本年度も
無事に活動できましたこ
とを厚く御礼申し上げます。
最後にありますが、青
年部としては、本校への
協力は限られた活動内容
になると思いますが、同
窓会各位の皆様、事務
局の先生方には、今後と
も青年部にご支援、ご協
力のほどお願い申し上げ
ます。





消防活動で地域住民のために尽力

昭和三十四年度卒
上野 博 正

私は、昭和三十四年度の第五十回卒業で、大変嬉しく思っています。卒業後米麦を中心の農業でたばこ耕作していました。真岡市では、中村地区に工業団地を造成、広大な畑や山林が変化してきました。昭和三十七年始め三社が募集、操業開始、私は、これから農業はどうなるかと考えていました。そんな時、真岡市職員募集を知り、両親に相談、父は、兵隊に満州、シベリアに抑留含め九年間兵役し、無事帰宅できました。私は、社会貢献をしたいと思い真岡市消防署を受験、昭和三十七



茨城県議会議員となつて

昭和四十七年度卒
田 所 嘉 徳

私が本校に入学したのは、農家の長男は代々守つてきた家業である農業を継ぐのが当然であるという風潮の時代だったためでした。一方で、当時も農業は曲がり角にきていると言われ、専業農家として生計を立てることが難しい時代になっていました。そのような中で、多くの同級生が卒業後も農業を営まずに他の職を求めており、私も他聞の漏れず建設関係の仕事に就き、家業は父の作業を手伝う程度となりました。私は今ならアントレプ

談会等、数多く実施、総務課では、人事、予算、消防団関係等、各市町との連携重視、訓練事務、知識の向上指導等を行う。多くの火災、救急、救助に当たってきました。特に昭和五十一年の真岡市青谷のゴルフ場造成現場での作業員二十一名が生き埋めとなり、二次災害の恐れがある中、先頭に立って徹夜の救出作業に当たり九名救助したが十二名が死亡の大惨事で大変辛い経験でした。二宮分遣所長（現在分署）、芳賀分署長、警防、予防、総務各課長、消防隊長兼真岡消防署長で退職、全国消防長会議、全国消防協会長、消防庁長官、各表彰、今回、危険業務従事者として、消防職員四



農業委員会会長就任

昭和四十八年度卒
小 林 芳 美

私は昭和四十九年に本校を卒業し、早いもので三十七年もの歳月が過ぎさりしました。本校を卒業と同時に家業の農業に就農しました。当時のクラス仲間の大半は、農業の道に進んだと記憶しています。就農と同時に地域の先輩達からの勧めもあり、農業後継者で組織された青少年クラブ（4H）や、葉たばこ栽培農家の青年部に加入したり、地元の青年団にも入り、地域の同年代の方々との交流を含め、青春時代を過ごしました。卒業当時の我が家の経営は葉たばこ栽培を中心にしていました。現在も葉たばこを中心にしていますが、面積は当時の二



芳賀地区農業共済組合長に就任して

昭和四十二年度卒
猪 野 邦 夫

同窓会の皆様におかれましては、共済事業にご支援賜り、感謝申しあげます。三月十一日、東日本大震災に多くの大被害を受けました。芳賀地方の被害状況は県内の三分の一強の建造物の損壊、停電による園芸施設内農作物の低温障害、液状化による農地や用水路等に大被害を受けました。一方において原発事故による農畜産物の出荷停止風評被害の益々のご発展を御祈念



申し上げます。今後とも芳賀共済にご理解とご指導を頂き変わらぬご支援をお願い致します。



PTA会長として

昭和五十九年度卒
高 平 登 順

平成二十三年度PTA会長を仰せつかりました山前支部の高平登順です。微力非才の身ではございますが、精一杯頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。同窓会の皆様には、日頃より本校生徒のため、PTA活動に對して、ご協力を頂き大変感謝申し上げます。はじめに、去る三月十一日に発生した東日本大震災におきまして被災された方々に、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。さて、残念ながら現在の生徒たちを取り巻く環境は、かつて良いものとは言えないのが現状そのものです。とくに情報化社会の発展は生活様式を一変させ、生徒たちにも大きな影響を及ぼしています。有害な情報の氾濫やコミュニケーション手段の多様化は、悪質な事件等を誘発しているほか、人間関係を殺伐とし



家庭クラブ活動報告

顧問 沼田 美季

学校家庭クラブは、家庭科を学習する高校生を会員とし、家庭科の学習を通して、学校内や地域の生活に目を向け、問題を発見し、その解決の方法を探り、生活の改善、向上を目指す実践的な学習活動をおこなう組織です。〔創造・愛情・奉仕・勤労〕の精神を柱とし、本校では教養福祉科が福祉教育の中で家庭クラブ活動を展開しているところに特色があります。

本校の家庭クラブは、奉仕活動、交流活動、研究活動に力を入れており、家庭クラブ役員を中心とし、

家庭クラブ活動を通じて

三年五組 秋山 楓花

私が家庭クラブ会長に就任してから、早くも一年が経ちました。会長としてお話をいただいた時は、伝統ある家庭クラブ会長としての任務は、責任感と統率力が必要とされる大役であり、大きな不安と小さな期待からのスタートでした。しかし、先



出深い活動です。この活動は、ペットボトルキャップを回収することにより、発展途上国の子どもたちにワクチンを届けるボランティア活動です。資源のリサイクル、世界の子ど

展途上国の子どもたちに届けることができました。活動の成果を数値として確認することができ、役員も嬉しさとやりがいを実感しています。また、新たに自動販売機付近と職員室にも設置させていただき、更に活動の輪が広がっています。学校祭では募金活動をおこない、在校生や来校された方々から多くのご協力をいただきました。

交流活動では、調理講習会を二回おこないました。役員の提案により、ギョウザの皮を用いたピザ、クリスマスにはデコレーションケーキを作りました。調理、会食をしながら、学年の枠を超えて交流をおこなうことが

もたちの救済という二つの観点から、家庭クラブ活動の「創造・愛情・奉仕」の精神に合ったボランティア活動であり、役員一同期待を膨らませ、積極的に活動をおこないました。

最初に、認知度を高めるために、パンフレット作りや活動内容をまとめた集会や学校祭等で掲示することからスタートしました。この活動は家庭クラブ員にも認知されるようになり、多くのペットボトルキャップを回収することができました。

最近では、教養福祉科の教室内にしか設置されていなかった回収専用の箱を、全校生が使用する自動販売機付近にも設置させていただくことがで

でき、有意義なひとときとなりました。

研究活動では、十二月に意見発表会をおこないました。各学年の代表者による意見発表、二年生のエプロンシアター、三年生のパワーポイントによる調査研究が発表され、他者の意見や授業の成果を知るよい機会となりました。

家庭クラブ活動を通して、「思いやり」そして「こころ」のつながりの大切さに気づき、豊かな心が育まれることは大変意義のあることだと思います。最後になりますが、今後の家庭クラブ員の益々の活動を期待しています。

きました。小規模な活動からの始まりでしたが、今では全校の活動へと広がりをみせ、嬉しさと同時に、今後も北陵高校全体のボランティア活動として継続し、家庭クラブの精神が一人でも多くの人の心に定着することを願っています。

家庭クラブ会長として務めさせていただいたことは、自分自身を成長させていただく大きな経験となりました。先生方をはじめ、家庭クラブ役員、クラブ員の皆さんには大変お世話になりました。今後の家庭クラブ活動の益々の発展を心から祈念いたします。

三年間ありがとうございました。

3.11 東日本大震災 北陵高校も大きく揺れる (被害状況)



平成二十三年三月十一日に発生した東日本震災では、揺れによる直接被害、東北地方の沿岸を襲った巨大津波、福島原発の放射能漏れなど未曾有の被害をもたらした。私達の心にも大きな傷跡を残したことは言うまでもありません。この震災で亡くなられた方の御冥福をお祈りいたします。

県内での揺れによる被害はこの県東部が大きく、周辺の各県立学校においても影響を受けましたが、今回は紙面をお借りいたしまして、本校における施設関係の被害について御報告いたします。

まず、表紙写真につきまして解説いたします。

- ①正門及び塀の御影石等が落下しました。
- ②③第一体育館は北側軒天の落下や、筋交いが数箇所湾曲し、立入り禁止となっております。
- ④⑤各渡り廊下の柱、天井、床及び建物接合部分のアルミカバー等が損傷し、管理棟、商業・福祉棟間は立入り禁止となっております。
- ⑦各室内において棚や家具が倒壊し、収容物も損傷いたしました。

⑧校内の危険箇所及び避難経路を掲示し、安全を図りました。

このうち、①及び④⑤は今年度中に復旧し、②③の第一体育館は来年度の耐震工事に併せて復旧いたします。

この他、原稿作成の時点にて復旧した箇所は、

- ・受水槽からの水漏れ
- ・教室棟及びガラス温室等のガラス破損
- ・管理棟のガス漏れ
- ・照明器具の一部脱落
- ・温室用暖房ボイラー及び重油タンクの一部破損がございました。

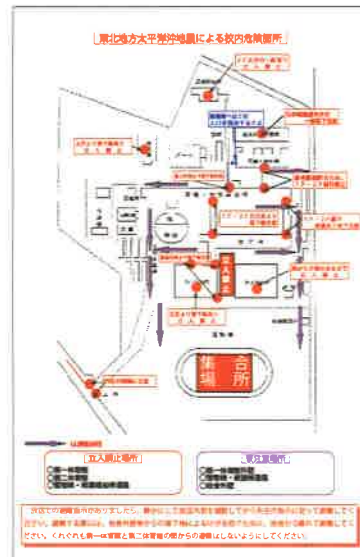
また、今後順次復旧工事を実施する箇所は、

- ・報徳寮の天井等内装
- ・弓道場ブロック擁壁
- ・校庭ブロック擁壁
- ・その他

などがございます。

これほどの被害にもかかわらず、一人も怪我人が出なかったことは正に不幸中の幸いと言えるでしょう。

最後に、修繕工事の実施や施設の一部立入り禁止により、皆様に御迷惑をお掛けしておりますが御協力に感謝申し上げます。



北陵高校各科の取り組み状況

生物生産科



生物生産科では地域を支える後継者育成に取り組んでいる。毎年、農業推進協議会の支援を得て先進地見学を実施し、生徒の農業に対する意識・意欲の向上に努めている。

また、栃木県芳賀農業振興事務所と連携し、農業後継者及び地域農業への関心が高い生徒を中心に、七月六日に経営普及部職員との懇談と、管内生産者二軒の圃場見学を実施した。農業士として酪農を営む大島浩さん宅と、今年度オープンファームを実施しているキク栽培を営む女性農業士の高橋里子さん宅を見学した。生徒からは経営形態や、栽培方法、工夫している点など様々な質問が出た。地域農業を支える振興事務所の活動を知ると共に、地域農業の理解と専門性を高める意識向上の良い機会となっている。さらに、芳賀地区青少年クラブ研究発表会にも参加する機会をいただき、地元の先輩方の発表を熱心に聴き、農業実践の難しさや可能性について学んでいる。

農場の特性を活かして毎年、地元の保育園、幼稚園、特別支援学校等の農業教育や動植物との触れ合いの場を提供し、交流を行っている。生徒は、実習や授業を通して学んだ野菜や果樹の栽培方法、牛や豚の飼育方法を説明すると共に、見学に来た子どもたちの収穫補助、動物の餌やり補助も行っている。子どもたちは、農場の広さに驚いたり、牛がワラを食べる様子に感動したりする場面もあるが、交流を通して、収穫の喜びや感動を味わうことができる。また、生徒にとっても小さい子どもにも分かり易く工夫しながら説明することで様々な知識を再確認することができ、良い機会となっている。

この他にも、花壇作成や尊徳さんの田んぼで米作り事業、イベントにおける生産物販売など、地域に根ざした取り組みを展開している。

農業機械科



農業機械科は、今年度から学科再編により鹿沼南高校(前鹿沼農業高校)の農業機械科がなくなり、県内唯一の学科になった。また、芳賀郡内には、真岡工業高校に機械科と生産機械科があり、差別化を図っている。

今年度は、地域交流として栃木県農業公社が行っている「とちぎ夢大地応援プロジェクト活動」に参加した。活動場所は那須烏山市大木須で行われ三回にわたって実施された。内容は中山間地の湿地に生息する生き物調査や伝統工芸品(ホタルカゴ)作り、ソバ刈りなど多岐にわたって行われたが、農業機械科は授業で学習している刈払機を使って活動場所の草刈りを重点的に行った。生徒たちは、起伏に富んだ土地は初めてだったため苦労していたが楽しんで実施できた。

食品科学科

未曾有の東日本大震災は本校においても体育館や校舎通路等、甚大な被害をもたらした。未だにその爪痕は大きい。食品科学科にあっても、その被害や影響を大きく被った。特に地域の多くの皆様にご利用頂いている味噌の仕込みが年度内に完了せず、大きく新年度にずれ込んでしまった。しかし、「こんな時だからこそ一人でも多くの人に食べてもらいたい」という生徒の意識は高まりを見せた。最終的には生徒・職員一丸となって昨年度の約二倍ほどの味噌の製品化と相成り、北陵祭や農場祭において例年以上の賑わいを見せた。



今年度の生徒の頑張りに目は見張るものがあつた。栃木県学校農業クラブ連盟主催の意見発表会の文化・生活部門においては食品科学科の一年生が学校代表として出場した。また、三年生による食品開発チームはプロジェクト発表会の食料生産部門に出場し、それぞれ優秀賞に輝いた。特に食品開発チームによる研究は、規格外イチゴを有効利用したもので、各方面から高い評価を得るなど大きな成果を残した。

域の料理にしたいねと好評だった。その結果、下野新聞や真岡新聞、真岡いちごテレビ、レディオベリなどの各メディアから何度も取材を受けている。また、芳賀町の町おこし事業である「いい芳賀いちご夢街道」からも協力依頼を受け、その協議会には開発チームのメンバーと先輩の研究を引き継ぐ二年生も参加している。

教養福祉科

教養福祉科では、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的に、体験的に習得させるとともに、介護専門職の育成を図ることを目標に学習している。

平成二十一年度より、「介護福祉士」の養成校となり、さらに高い専門性が求められるようになった。高校でありながら、短大や専門学校と同等レベルの教育内容や授業時間数となり、五十二単位一八二〇時間を履修しなければならない。つまり一単

総合ビジネス科



総合ビジネス科では商業(ビジネス)に関する各分野についての基礎的・基本的な知識と技術を習得し、ビジネスの諸活動に適切に対応するための能力と態度を育てることを目標としています。具体的には簿記会計・経営情報・流通ビジネス・国際経済などの商業(ビジネス)の基礎を学び、自分の希望する職業に就くため、資格取得をとおし、

また、授業で学んだことを実際の経済活動を比較して商業の理解を深めます。本年度は日本の先進的な商業施設である日本銀行で研修を行いました。自分の目で確かめることによって、経済の実態をより深く考えることができます。生徒にとっては初めて見聞することばかりで有意義でした。進路指導については、



生徒一人一人の個性と希望をもとに勤労観・商業観やマナーの習得を目指しています。大学や短大、専門学校、地元の優良企業を見学して進路選択の一助とします。本年度はTBC学院小山校と成田食品株式会社栃木工場見学をしました。体験学習をしたり、製造工程をみて学ぶことの難しさ、働くことの大切さや企業の役割などを感じたと思います。

用事との交流を図っている。

卒業時には、最終的な目標である「介護福祉士の国家試験に挑戦している。全国平均の合格率が五十%前後であるのに対し、本校は平成二十一年度八十四%、二十二年度九十五%であった。

「介護福祉士」は、専門的な知識や技術を身につけ、さらに人の命にかかわるため、高い倫理性も要求される。三年間の学びが、福祉マインドを育て、多くの福祉分野で活躍し、社会に貢献できる人材に成長してくれることを期待する。

農業クラブ会長として

三年一組 伊 沢 俊 哉

私が会長になってから一年が経ちました。最初はこれ大役を果たすことが出来るのかと不安でしたが、早いものです。今ではとても楽しく活動出来るが、自分の中で力に変わっていることに気がきます。

平成二十三年年度の農業クラブ活動は、北陵高が家畜審査競技会運営事務局になったこともあり、役員や先生方も多忙だったと思います。さらに三月十一日の東日本大震災の影響により、校内農業鑑定競技が第一体育館で行えず前例のない第二体育館で行うことになりました。会場の準備や運営の仕方など位置から考えなければならず、とても大変でした。しかし、役員や顧問の先生方と話し合いながら試行錯誤を繰り返して、当日を迎えました。校内農業鑑定競技の開会式が始まってから閉会式が終わるまで、何事もなく運営できた時はとても安心しました。無事に成功したのは役員皆の努力があったからだと思っています。役員の方には大変感謝しています。

今年の朝市では、九月には本校で収穫されたブドウ・ナシなどの果物中心に販売され、たくさんのお客様が来校し、数十分で完売したため、急速に追加販売したりしました。

十一月に行われた収穫感謝祭は校内の水田で行われ、本校で収穫した米や豚肉、野菜を使い鍋とコンロを使ってご飯とカレーを作っていました。今年一年間を振り返ってみると、会長になってから引退するまで、役員や顧問の先生がたに支えられてきました。さらに今まで経験のないことが多く、自分を信じていることが出来なくなり迷うことが多々ありました。しかし、そのたびに副会長や役員全員が協力してくれておかげで、最後まで頑張り続けることが出来ました。

最後になりますが、農業クラブは私たち高校生を育ててくれる素晴らしい組織だと思います。できるだけの人が関わって、いろいろなことを経験して欲しいです。今後北陵高校農業クラブがより良く発展していくことを願っています。一年間会長という貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。



農業クラブ活動報告

顧問 有 村 君 子



今年の農業クラブ活動は、各種競技発表大会への出場や、北陵高朝市の継続、また三月に起きた東日本大震災で被災した東北の農業高校への募金活動などを行ってきました。

校内行事では、震災の影響により、本校第一体育館が使用できないことから、校内各種競技大会の運営に苦労することが多々ありましたが、クラブ員の協力もあり無事終えることができました。栃木県学校農業クラブ連盟大会は、各種発表大会および式典会場を栃木市文化会館で行い、各校ともに白熱した競技が行われました。本校からはプロジェクト発表において区分食料で食品科学科三年の小池恵さん他九名が優秀賞を受賞。また、意見発表会では、区分環境で生物生産科一年の菅谷美佳さんが、区分文化生活では食品科学科一年の泉友友さんが優秀賞を受賞することができました。

家畜審査競技会(肉牛の部)では、本校役員が運営を行いかいさいされました。本校からは生物生産科三年の金子美久さんが優秀賞を受賞しました。

夏に行われたフラワーアレンジメント競技会では、生物生産科二年の若目田春美さんが優秀賞を受賞し、十二月に鹿児島で行われた第二十一回全国産業教育フェア鹿児島大会フラワーアレンジメントコンテストに県代表として出場しました。平板測量競技会では、農業機械科二年の岡本和貴くん・坂本成寿くん・野沢俊介くん・杉山和希くんのチームが出場し、優秀賞を受賞しました。農業情報処理競技会では、本校から三名が出場し、生物生産科二年の高橋麻美さん、仙齋有美さんが優秀賞を受賞しました。

本校からは、農業鑑定競技三名、クラブ員代表者会議参加生徒一名の計四名で臨みました。日頃の勉強の成果を発揮し、農業鑑定競技において、農業コースに出場した生物生産科二年の今村賢也くん、農業機械コースに出場した農業機械科三年の吉羽知也くんの二名が優秀賞に入ることができました。また、クラブ員代表者会議では、全国のクラブ員と活発な意見を交換し、充実した全国大会参加となりました。

第二回栃木県高等学校溶接コンクールに参加して

二年二組 福田 和樹・野沢 俊介



農業機械科の私たち二人は十一月五日に栃木県立県央産業技術専門校で「とちぎものづくり技能大会」に兼ねて行われたコンクールに参加しました。

大会に向けて溶接協会のインストラクターに本校へ来校していただき溶接の仕方やコンクールのに向けた練習が始まりました。アー

ク溶接は総合実習で学んでいましたが本格的に鋼材を溶接するのは初めてで、初めはとても緊張しながら練習

フラワーアレンジメント競技大会全国大会に出場して

二年一組 若目田春美

私は今回、十二月に鹿児島県で行われた第二十一回全国産業教育フェア鹿児島大会、第十回フラワーアレンジメントコンテストに出場してきました。県大会で県代表に選ばれた高校生が、フラワーデザインに関する技術と感性を育み、二十一世紀を担うスペシャリストとしての創造性・芸術性を高めることを目的として開催された大会です。全国大会ということで私はとても不安がありましたが先生達の支えもあり

大好きな花にたくさんふれられて練習をしているうちに少しずつ満足する作品も作れるようになり自信をもって全国大会に出場することができました。指定された花器、花材のみを利用し五十分で自分が考えたテーマにより作品を制作するという制作規定の中で精一杯頑張っていました。製作中の花の扱い方や技術を見られるので、慎重に作品を制作しました。ワイヤーにフロラルテープをまきつけるという作業が緊張

習をしました。競技の課題は「板の突合せ溶接」という区分の溶接をしました。材料の大きさが一五〇ミリ四方の板にV型の隙間を四ミリの溶接棒でアーキ溶接していくという競技です。競技時間は三十分で競技材の制作を行います。また作品の清掃や作業時間も含まれるので初めはなかなか時間内に作品を終わることが難しく戸惑いがあり、「ビート」という溶接した後の波目が難しかったりしましたがインストラクターの人と秋山先生の指導のもと練習を何度も繰り返し放課後はほとんど毎日残り前日の失敗を繰り返さないように練習を繰り返しました。

この大会には今回が初めてのためこの高校が張ってしまいうちに手になくなくなってしまうという大会に出場させていただけでも私は十分満足です。

また、来年の大会に向けてたくさん勉強になりました。これからも私は、大好きな花とたくさんふれあうて楽しくアレンジメントができればいいと思います。

最後に、私はたくさんの方に支えられたからこそ全国大会に出場できました。応援してくれた先生方、友達、家族に感謝をします。本当にありがとうございました。



生徒会長としての一年を振り返って

三年一組 田村 智之

私が生徒会長を務め、早一年が過ぎました。昨年度は、副会長として赤羽先輩のもとで仕事を務めてまいりました。赤羽先輩の仕事ぶりを一年間通して見てきて、私も同じように学校をまとめる事が出来るのかと不安でしたが、諸先生方、生徒会役員と共にこの一年間頑張つてまいりました。

会長になり、始めの頃は予想通り緊張と不安で話し合いでは上手く司会や意見をまとめることが出来ずにいました。時には場の雰囲気や乱れ、自分の会長としての力の無さに落ち込むこともありましたが、しかし、アドバイスを下さつた諸先生方優しい仲間のおかげでだんだんとスムーズに話し合いを進めることが出来るようになりました。

生徒会活動報告

中島 篤志

今年度の主な取り組みについて報告いたします。

四月の益子特別支援学校との交流会では、農業体験での、グループごとの誘導役や会食のためのカレー作りを行いました。調理については料理が得意な女子が中心となり手際よく進めることができました。また、農場や牛舎を誘導する際、お互い手をつなぎ楽しく会話をしながら歩く様子が見られるなど、最後の会食までお互い楽しく過ごすごうことができました。

六月の体育祭では、震

進路指導室から

町田 則人

進路係になった四月。不安でしかたありませんでした。本校の生徒は半分近くが就職を希望します。果たして、全員就職させることができるのか新卒採用システムが無くならない限り、三年時の内定は大きな意味を持つています。

三月の震災から始まり、欧州での政府債務(借金)問題、超円高による海外への工場移転、タイの洪水など希望が持てる状況ではありませんでした。今、世界はグローバル化の名のもと、ネオリベ(新自由主義)政策が経済のみならず教育にも浸透しています。それは市場競争原理・企業経営管理を重視するものです。そして、雇用・社会の不安と格差を引き起こしているのです。それに、身長一六〇センチ足らずのユダヤ人経済学者ミルトン・フリードマンという男がからんでいることは以外に知られていません。大量生産・大量消費(フォードイズム)が終わり特殊技能を基礎とする単純労働も減り、多様な働き方が必要とされています。

最後にありますが、校長先生はじめ、諸先生方、生徒の皆様、本にお世話になりました。私はこの一年間で大きく成長することが出来ました。よい良い話し合いをする工夫、人を思いやる気持ち、自分への責任感など様々なことが出来ました。そして、これらの経験を今後の生活に大いに生かせるように努力していきたいと思っています。今後、生徒会長を中心に真岡北陵高等学校のさらなる発展を祈念しております。短い間でしたが本当にありがとうございました。

凝らし進めることができました。一日目のオープニングでは仮装大会を企画し、各クラスからの個性あふれるグループの参加により、大変盛況でした。二日目のビンゴ大会やステージ発表の裏方の仕事なども、事前に何度も打ち合わせを行い、三年生を中心に、係ごとで綿密に計画を立てながら進めることができました。ここにあげた以外にも、年度の初めに生徒総会を開き、夏には野球応援に参加するなど、生徒会役員にとつては大変意義深く、また貴重な体験をすることができたと思います。また、校内放送を使い毎日交代で、節電を呼びかけました。

月末の全国の高校生の内定率は五八・六％でした。学科別にみると工業科約六十％福祉科約六十七％商業科約六十％農業科五十七％となっています。内定の理由としては、生徒たちの就職に対する高い意識、担任の先生を中心に全職員一丸での指導、そして、地元の本社のハートフルな対応にあると考えます。各事業所には深く感謝いたします。世界には掟があります。それは働かないと生きていけないという原理です。労働し賃金を得なければ生存できません。それはとてもシビアな掟です。そして人は社会のなかで私たちが人間は何らしらの役割の担い、他者と交通・連関していく存在です。労働は自己の中心的世界といえるでしょう。

本校の生徒は地元を支える宝です。そんな生徒たちを育て、社会に送り出すこともこの学校の役割と考えます。

平成23年度進路状況 (平成23年12月31日現在)

在籍数	学 科 名	男子	女子	合計
	生物生産科	23	14	37
	農業機械科	38	0	38
	食品科学科	6	31	37
	総合ビジネス科	8	32	40
	教養福祉科	1	28	29
	合 計	76	105	181



進 学	学 科 名	国公立大学		私立大学		短 大		教育訓練施設		専門・専修学校	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
	生物生産科	1	0	2	0	1	1	0	0	7	3
	農業機械科	0	0	1	0	0	0	3	0	9	0
	食品科学科	0	0	0	1	0	0	0	0	2	8
	総合ビジネス科	0	0	2	1	0	0	0	0	2	17
	教養福祉科	0	0	0	1	0	4	0	0	1	9
	合 計	1	0	5	3	1	5	3	0	21	37

就職・在家・その他	学 科 名	公務員		県 内		県 外	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子
	生物生産科	0	0	11	6	0	2
	農業機械科	0	0	24	0	1	0
	食品科学科	0	0	4	15	0	1
	総合ビジネス科	0	0	4	10	0	1
	教養福祉科	0	0	0	13	0	1
	合 計	0	0	43	44	1	5

(在家・その他6名)



編集後記

昨年は生涯消すことができない三・一一の震災、それに伴う原発の被害など、われわれ人間と言う種のあり方を根本から考え直す年になりました。農業者も他の産業従事者もこれらが始まりと言う人生観を持ちたいものです。

生徒の皆さんの各方面での活躍を心強く感じています。

応援しています。

編集委員

井澤 誠 館 芳衛
廣田茂十郎 猪野 正子
荒川 普丸 豊田 一樹
山口 秀明 宮田 尚之

同窓会では会報の編集委員を募っています。
是非あなたのご協力をお願いします。